

奈良学園大学における研究者等の行動規範

（ 制 定 平成28年 2月22日
最近改正 ）

奈良学園大学（以下「本学」という。）において研究に携わる教職員、学生等すべての者（以下「研究者等」という。）には、教育及び研究が地域社会や世界に与える影響と責任を自ら厳正に律するための倫理的な規範が求められている。本学は、研究の信頼性と公平性を確保するとともに、社会の信頼と負託を得て、主体的かつ自律的に研究を進め、科学の健全な発展を促すため、研究者等が遵守すべき行動規範を次のとおり定める。

（研究者等の責任）

1. 研究者等は、自らが生み出す専門知識や技術の質を担保する責任を有し、さらに自らの専門知識、技術、経験を活かして、人類の健康と福祉、社会の安全と安寧、そして環境の持続性に貢献するという責任を有する。

（研究者等の行動）

2. 研究者等は、研究の自律性が社会からの信頼と負託の上に成り立つことを自覚し、常に正直、誠実に判断し、行動する。また、研究によって生み出される知の正確さや正当性を、科学的に示す最善の努力をすると共に、特に自らの専門領域における研究者相互の評価に積極的に参加する。

（自己の研鑽）

3. 研究者等は自らの専門知識・能力・技芸の維持向上に努めると共に、科学技術と社会・自然環境の関係を広い視野から理解し、常に最善の判断と姿勢を示すように弛まず努力する。

（説明と公開）

4. 研究者等は、自らが携わる研究の意義と役割を公開して積極的に説明し、その研究が人間、社会、環境に及ぼし得る影響や起こし得る変化を評価し、その結果を中立性・客観性をもって公表すると共に、社会との建設的な対話を築くように努める。

（研究活動）

5. 研究者等は、自らの研究の立案・計画・申請・実施・報告などの過程において、本規範の趣旨に沿って誠実に行動する。研究・調査データの記録保存や厳正な取扱いを徹底し、捏造、改ざん、盗用、二重投稿、不適切なオーサiershipなどの不正行為を為さず、また加担しない。さらに本学が行う研究倫理教育プログラムを受講し、研究倫理に習熟し遵守する。

（研究環境の整備）

6. 研究者等は、責任ある研究の実施と不正行為の防止を可能にする公正な環境の確立・維持も自らの重要な責務であることを自覚し、自らの所属組織の研究環境の質的向上ならびに不正行為抑止の教育啓発に継続的に取り組む。また、これを達成するために社会の理解と協力が得られるよう努める。

（法令の遵守）

7. 研究者等は、研究の実施、研究費の使用等にあたっては、本学が行うコンプライアンス教育を受

講し、法令や関係規則に習熟し遵守する。

(研究対象などへの配慮)

8. 研究者等は、研究への協力者の人格、人権を尊重し、福利に配慮する。動物などに対しては、真摯な態度でこれを扱う。

(他者との関係)

9. 研究者等は、他者の成果を適切に批判すると同時に、自らの研究に対する批判には謙虚に耳を傾け、誠実な態度で意見を交える。他者の知的成果などの業績を正當に評価し、名譽や知的財産権を尊重する。

(差別の排除)

10. 研究者等は、教育・研究・学会活動等において、人種、ジェンダー、地位、思想・宗教などによって個人を差別せず、科学的方法に基づき公平に対応して、個人の自由と人格を尊重する。

(利益相反)

11. 研究者等は、自らの研究、審査、評価、判断などにおいて、個人と組織、あるいは異なる組織間の利益の衝突に十分に注意を払い、公共性に配慮しつつ適切に対応する。